



やまなし自然

活動事例紹介 01

稲作、田んぼでの活動

本園の稲作体験は、単なるイベント的な体験とは一線を引き、一から行います。5月、種もみから始め、苗を育てます。6月、年長組が田植えを行います。水を張った田んぼでは、おたまじゃくしやカエルなどの生き物がありますが、虫を怖がる子どもはほとんどいません。虫を両手いっぱい集めたり、土でおだんごをつくったりして、泥だらけになって楽しんでいる子どもばかり。

子どもの頃に体験した小さな経験は、いくつになっても思い出として残ります。それは、遊びを通して培われたものの方がより強烈に残っていると聞きます。卒園した子どもの中には、「お米の成長を知っているのは私だけだった」「田んぼの活動が試験に役立った」などの声も。土に触れた体験は、いつまでも子どもたちの心に植え付けているのでしょうか。(認定こども園 かおり幼稚園)



田んぼでの活動は、新しい発見がいっぱいだよ!!



森で見つけた葉っぱで色を塗ろう!



活動事例紹介 02

自然×アートの活動

お泊まり保育で実施した「自然体験×アトリエ教室」。森の中で、約10メートルもある大きな白い布を広げ、何色もの絵の具を散りばめて、自由時間のスタートです。子どもたちは、森の中にある木の枝や葉っぱを掴んできて、それを筆代わりに思いおもいの色に染めていきます。「こんなに大きな枝を取ってきたよ!」、「青で塗ったら海みたいになったね」、「少し離れて見てみると、色々な色がある絵」など、1人ひとりが今感じていることを言葉として口に出す姿が見られます。森林公園という地域資源と、五感を刺激するような地域に根付く人材を融合した体験を通じて、「上手に絵がかけてよかったね」と言葉をかける大人は1人もいません。もっと違う視点で、「思っていること、感じたことを言葉にできた」喜びに子どもたちの成長を感じます。(認定こども園 甲府西幼稚園)



保育活動事例

活動事例紹介 03

園舎のない自然の中での活動

園舎のない本園は、森林公園を主な活動拠点としながら、その他、借りている田んぼと畑にて日々活動をしています。雨の日だって子どもたちには良い天気!フード付きのカップを頭からすっぽりと被り、長靴姿で登園するのが基本のスタイルです。お弁当や水筒、タオルや着替えなどを詰め込んで、日頃からずしりと重い大きなリュックを背負う子どもたち。雄大な自然の中で毎日たっぷりと遊びます。

“なぜ自然なのか”。それは、自然は多様であるから。自然には、全人格的要素があり、その全てを包括しているからです。自然が持つ教育力に勝るものはなく、自然の中で思い切り遊ぶことで、探索と没頭がそれぞれの子に保証されると感じます。日常から続く特別を教えてくれるのは、いつだって子どもたち。

(森のようちえん にっこにこ)

今日はこの岩が私たちの椅子だよ~



活動事例紹介 04

大学生と過ごすふれあいの森での活動

園から約4km離れた「ふれあいの森」へ、年間を通じて定期的に訪れる子どもたち。森での活動は、いつも同市にある都留文科大学のお兄ちゃん、お姉ちゃんたちと一緒にです。

3歳で入園して約半年が経つ頃、子どもたちは初めてふれあいの森での時間を体験します。最初は、森の雰囲気や怖がり、足元が覚えない子やボーッと立ち尽くしてしまう子もいますが、大学生が同じ空間にいて少しかが和んでいる様子。あっという間に自ら遊びを見つけて子どもたちにとっての宝の山になっていきます。自然保育を積極的に取り入れるようになって約10年、今では「早く森で自由に遊びたい!」と心待ちにしている子ばかりになりました。自然保育と安全な食にこだわっている本園には、美味しいご飯と自然の中の自由な遊びを求めた子どもたちが集まります。

(社会福祉法人ふれあいの森 東桂保育園)



お兄ちゃん、お姉ちゃんといつも一緒だよ。

